Interview #02

*2025年2月インタビュー

2025年2月所属：生命農学研究科 応用生命科学専攻
(卓越大学院CIBoG／名古屋大学融合フロンティアフェロー)
2025年4月所属：大手精密機器メーカー

生命農学研究科　木原 もなみ さん

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

春からは精密機器メーカーの技術職として働きます。総合職なので、どんな配属になるのか正式には分からないのですが、多分、研究職です。入社後に教えてもらえるようです。基本的に専門領域とは違う分野の企業なので、入社後は勉強の日々になりそうです。もし研究職ポジションではなかったらと考えると、少し不安ですが、いずれにしても楽しみです。

これまでやってきた研究の概要を教えてください

専門分野は抗体工学です。試験管の中で進化を疑似的に再現して、目的の標的に結合する抗体を取ってくる技術があるのですが、その方法を改良したり、実際に使ったりする、かなりウェットな実験を行ってきました。

就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

アカデミックか企業かという点では、博士課程の割と早いうちに企業研究職に就きたいと考えていました。研究をしているうちに、「自分が関わった技術で、誰かのためになりたい」という気持ちが出てきて、その上で、その貢献を実感できる環境にいたい、と思ったのです。アカデミックで論文の提出などを通して間接的に社会に還元されていくよりも、直接的に関われる企業を選びました。企業研究職の中でも悩みはあったのですが、自分が関わる製品が実装化されるスパンがある程度短くて、人々の役に立つことがわかりやすくて、なおかつ自分の研究スキルが活かせる企業を選ぶようにしていました。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

私の中で一番大きかったのは、シンポジウムとか学会の若手実行委員などをやらせてもらったことです。振り返ると、名大の院に入ってからの5年間はうまくいかない時期の方が長くて、研究のことだけ考えていると精神的に追い詰められていました。その点、シンポジウムや学会には終わりがあって、そういう外部コミュニティに参加することは精神的に良かったです。他にも2つのメリットがあって、ひとつは就活について相談できる先輩や、しんどさを共有できる仲間に出会えたことです。もうひとつは就活時に「研究以外での、あなたの強みやそれを発揮したエピソード」を聞かれることが度々あって、実行委員会のことなどを実感を伴って話せたのは好印象だったのかなと思います。 あと、私のキャリア形成の中で大きなきっかけになったのが「企業と博士人材の交流会」です。実は就活を始めた時は、自分である程度業界を決めていて、その業界の企業しか受けないつもりだったんです。ただ、マッチングイベントでたまたま精密機器メーカーの人と話をして、そこから縁が生まれて入社することになりました。いきなり自分の専門と違う分野の業界にエントリーするのはハードルが高いですが、事前に企業の人と情報の擦り合わせができていると、すごくやりやすかったですし、幅が広がりました。

就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

私の場合は、学振とか特許などの目立った実績がありませんでした。ただ、専門領域を分かりやすく説明する言語化力や、実行委員などの経験を裏打ちとしたコミュニケーション能力、主体性は見てもらえたかもしれません。極端な強みがない代わりに、欠点も少ないですよというのを素直に伝えていました。そういう意味で、TOEICなども頑張っていましたね。ちなみに、就活中に感じたことなのですが、採用側が博士を見る時に、求める人物像はひとつではないと思います。同じ会社を受けている友人と、面接で聞かれる内容や深掘りされる方向性が全然違うこともありました。もちろん企業にもよると思いますが、自分なりに「ここが強みだ」と思える部分を作り、それを素直にアピールすることで、自分と相性の良い企業に行けるのではないかと思いました。

後輩たちにエールをお願いします。

特に博士課程ではよく言われることですが、先輩に「他人と比較しないことの重要性」を教えてもらったのはありがたかったですね。やはり学年が上がるにつれて、研究成果を出す人はものすごく出すし、実績や環境を比較すると「自分は何もできていない」と感じることもありました。ただ、博士課程は自分がやりたいことをじっくりとやれる期間だと思うので、成果ももちろん大切ですが、その過程を楽しむことを意識すると楽になります。あと、博士進学を不安に思う人に向けて伝えたいのは、私は博士になってすごく得をしたと思っていることです。正直、修士の私は、周りが見えてなかったし、コミュニケーションも苦手だし、実験と研究の違いも理解できてなかったです。博士の3年間があったおかげで、先輩や後輩との関わり合いの中で自分が大きく成長できました。あと、ドクターの学生同士というだけで親近感が強く、学会やシンポジウムでできた仲間は、この先もずっと縁が続くような仲間だと感じています。最後になりますが、博士は「他人に頼ることもスキル」だと思います。実は私が後悔してるポイントでもあるのですが、研究において、もっと早く周りの色々な人に相談しても良かったと思っています。やはりどこか遠慮したり、自分の力でやりとげなければならないと思い込んだり…という部分がありました。他人の意見を聞くことで課題解決のヒントを貰えたり、新たなアイデアが膨らんだりします。少しでも参考になれば嬉しいです。